

カーボンニュートラルやまがたアクションプラン改定に向けた主なご意見と対応

(○：検討WT構成員 ◇：やまカボ・CN大使)

ご意見	方向性
<ul style="list-style-type: none"> ○ 既存の住宅のリフォームや、ひと部屋断熱などを求めるお客様もとても増えている。補助金があったからつけてみたら大変良かった、全部の部屋をリフォームすることはできないが、いつもいる部屋や水回りの断熱性能を上げただけでもすごく快適になったという声もある。【佐藤(江)氏】 ○ 住宅の省エネに関しては、リフォームでどれぐらい CO2 が削減できるのかというところも、もう少しあってもいいと感じる。【赤川氏】 	⇒ アクションに伴う省エネ効果、節約効果をまとめたページ・資料を追加する。その中で、断熱リフォーム（モデルケース）による効果を示す。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 専門人材の育成の視点で、大学や専門機関にこういう学部があり、こういうことが学べるとか、こういった資格が取れる、こういった技術者になれるといった、高等教育機関との連携のようなものがアクションプランにあってもいい。【赤川氏】 	⇒ 産業・事業でのアクションに、企業内人材育成の観点も含め、カーボンニュートラルに向けた技術的な相談・連携先となりうる機関の窓口一覧を記載する。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 森林の吸収そのものだけではなくて、木材利用を長く続けることで、炭素を閉じ込めておくという「木づかい運動」の視点も入れるといいのではないか。【浦田氏】 ◇ 森林など今ある自然環境の美しさを維持・保全し、次世代に継いでいくような取り組みを継続的に行ってほしい。【CN大使】 	⇒ 「木づかい運動」について引き続きアクションに盛り込んだうえで、木材利用のカーボンニュートラルに対する効果についての記載を整理する。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 子供たち自身も地球温暖化について学び、防ぐための行動を取れるようにすることも大切。特に自分事として積極的に参加する「かかわる」についての取り組みは子供たちにとって必要。【佐藤(徹)氏】 ○ 次世代を担う子供たちの環境教育の部分が大事と長井市としても考えており、子供から大人、学校から地域と波及させるというところも重要なポイント。【渡邊氏】 ◇ 学校と連携し、環境問題をテーマにした活動を行うことで、若者の主体的な学びと環境意識の向上につながる。【やまカボ】 	⇒ 家庭でのアクションに、「子どもと一緒に考える」項目を追加する（小学生向けの環境学習や、家庭で子どもと一緒に環境について学習し考える内容を追加）。

ご意見	方向性
<ul style="list-style-type: none"> ○ 脱炭素経営のきっかけは、省エネ診断と認識。流れとしては、省エネ診断をして、エネルギー使用量の見える化をして、お金をかけずにできるところから省エネをして、補助金などを活用して設備更新して最後に再エネ導入というのがスタンダード。事業所に対し、こういったモデルを示していく必要がある。【渡邊氏】 ○ Jークレジットによるオフセットの割合を、省エネや再エネ導入をますます進めて最小限にしていく。サプライチェーン取引全体の排出量の削減を狙うため、取引先とも協力しながらScope3分野の削減を狙う。【安達氏】 	<p>⇒ 産業・事業でのアクションにおいて、取組み段階を追ったアクションのモデルを記載する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ GAP や Jークレジットは、すぐには利益に繋がらないことや手続きが必要なことからなかなか浸透していないが、いずれも農業者自身の経営にとってメリットのある取組みだと考えており支援を続けていく。【加藤氏】 ○ 米どころの山形として、特に中干し期間の延長による Jークレジットの創出はすごく武器になると思う。【渡邊氏】 ◇ 植物を利用した燃料を使うことで、CO₂ 排出量をゼロに近づける仕組みを知り、例えば山形でも豊富な農産物を利用できないかと感じた。【CN大使】 	<p>⇒ 産業・事業でのアクション（農業分野）において、Jクレジット活用等の新たな要素を取り入れる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ 車を乗り換えて満足ではなく、乗って楽しく、我慢をすることなく生活力も上げていくというように、自動車が使われるよう提案していけたらいい。【高橋氏】 ◇ 理想は「無理なく自然に、また、気づかないうちに対策ができている」状態。【やまカボ】 	<p>⇒ 県の施策検討に向け留意するとともに、民間でのサービス提供、インフラ整備等においても脱炭素が意識されるよう、産業・事業でのアクションに引き続き盛り込む。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ とりわけこれが大事なキーになるアクションだというのを示すといいのではないか。「身近で」「波及効果があり」「効果量が大きく」「実行可能で」「魅力的なものを」をうまくアクションの中で作り出して、できれば三つぐらいまで打ち出すと、多くの方が乗ってきやすいアクションになると思う。【五味氏】 ◇ 節電等の環境の改善を特に気をつける週を制定し、県民がその週は少しだけでも意識できるようにしてはどうか。【やまカボ】 ◇ 大切なのは「一人一人の行動を変えて行くこと」。より多くの人にカーボンニュートラルについて知ってもらい、取り組んでもらうことが必要。【CN大使】 	<p>⇒ 特に取り組んでほしい、4～5の県民向けアクションを厳選し、覚えやすいフレーズにまとめる（例えば「がっさん」（4文字）「もがみがわ」（5文字）を頭文字を用いたフレーズ等）。 ⇒ 環境月間（6月）等の機における集中的な周知・取組み強化を促す。</p>

ご意見	方向性
◇ CO2の吸収源は森林のほかに海のブルーカーボンもあり、海の環境も守ることで地球温暖化防止に繋がるというのを知り納得した。【CN大使】	⇒ 家庭でのアクションに「ブルーカーボン 生態系の保全活動への参加」を追加する。
○ コラムにおいて、電気料金ってこうなっているのだとか、再エネプランなどについて触れることで、お財布のところから県民運動を進めていくのもいい。そういう中で再エネ設備導入が有利だということに気づき、アクションに繋げていただくことも大事。【渡邊氏】	⇒ 主なアクションに伴う省エネ効果、節約効果についての記載を整理し、これらをまとめたページ・資料を追加する。
○ 太陽光発電装置は家庭に取り入れるサイズとして一番いいツール。一方で山形は雪国だから合わないじゃないかというネガティブな発想があるが、そこはちゃんとデータで示す。一番重要なのは、どれぐらいで元が取れるかというコストデータ。お金で表現し、メリットを徹底的に示していくということは全てにおいて重要。【三浦氏】	
○ 山形県の家庭は石油の給湯器が非常に多いので、電化してエコキュートに変えていく、それも、夜間ではなく昼間の電力を活用したエコキュートに変えていくことが費用対効果が大きい。そういうデータに基づいたものをアクションプランにしっかりと入れることが重要。【三浦氏】	
○ 行動を変えるには、日々のくらしも変えていくことが継続性を考えても重要。年代にかかわらず環境面に関し敏感だが、家計にもとても敏感。CO2削減は家計にも助かる、CO2削減=●●円削減、服を我慢すると●●円もお得など、お金という目に見える形だと興味が引きやすいかもしれない。参加の意識を持っていただくには、楽しくて目に見える、そして変えることで家計も助かる仕掛けが必要。【色摩氏】	

■ カーボンニュートラルに向けた施策についてのご意見

ご 意 見	方 向 性
<ul style="list-style-type: none"> ○ (産業・事業でのアクションについて) 自分事として考えて、何をしていくか決断をするのが大変ないので、その決断を後押しするような施策がもっと増えればよい。【安達氏】 ○ デカボ My スコアは、CO2 排出量が目に見えるような形になりとてもいいが、そこから興味を持った人が、より詳細に診断できるようなツールがあってもいい。【赤川氏】 ○ 自分自身が「やまカボ・サポーター」として活動することで、情報も増えていったっていう経験がある。環境活動へのアクセスを大学生として増やしていくらしいと考える。【工藤氏】 ○ 自動車そのものを変えるとすれば、やはり電動。山形県はハイブリッドや電気自動車がかなり多い方であり、そこに対してもっと重点施策を投入していくことが重要ではないか。【三浦氏】 ◇ 若者的心を動かすため、興味を持たせるためには、エンタメ要素（きれいな自然や風景を動画にして見せるなど）により、その重要性を理解させることから始めるとよい。【やまカボ】 ◇ 環境保全の効果は数十年後でないと現れず、成果を実感しにくいと感じる。そのため、すぐに利益やメリットを得られる仕組みが重要。【やまカボ】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境行動に対してリターン（得や補助）があることで、人々がより積極的に行動するようになる ・ まずは「面白そう」「やってみたい」と思えることが重要であり、「カーボンニュートラルだからやろう」ではなく、「ポイントが貯まるからやる」といった身近で即時的な動機づけが効果的 ◇ より多くの人にカーボンニュートラルについて知ってもらい、取り組んでもらうことが必要。例えば、公式 SNS フォローキャンペーンの開催などより情報を受け取りやすくなるような環境整備、水筒制作などの体験活動など。【CN大使】 	<p>⇒ 各アクションを後押しするための、県をはじめとした自治体における具体的な施策・取組み（民間と連携した取組みを含む）について、効果的に展開できるよう検討していく。</p>